

# 港区探索

一番最初に市電が走った港区

若い人は知らないと思いますが、一九〇

三年九月から一九六九年三月まで大阪市には市電が走っていました。日本で一番最初に市電が走ったのも大阪市で、一番早く廃止したのも大阪市でした。では、大阪市で最初に市電が走った区間はどこでしょう？

七月に大阪港築港大棧橋が完成、三月から五月月間、天王寺公園を中心に開催される第五回内国勸業博覧会が主なきっかけでした。

この時期、いくつかの民間資本が市街鉄道開設の出願を計画していましたが、当時の鶴原定吉大阪市長は、公共の交通機関なので、すべて公共の利害を標準として査定するべきであるとし、決して私人や営利会社に利権や権利を独占させてはならないと、きっぱり断ったのでした。橋下前市長や松井府知事、吉村市長は顔向けできませんね！戦争中は大空襲によつ

て甚大な被害を受けながら、部分的に動いて市民の足を守りました。

夕凧橋、朝潮橋は灌漑用水路にかけられた橋

市電が開業した当時、市岡から西はほとんどが開発された新田でした。その農耕地の中に高さ二



通とみなの中工事上げかさ

m、幅一六mの盛り土をして「築港大通」を作り、その中央を市電が走りました。これが現在のみなと通のルートです。

夕凧橋というのは、これら農耕地の灌漑用水路の一つをまたいで、作られた橋でした。橋の名は大阪市が当時の最新技術を取り入れて建造したバスケツト式浚渫船「夕凧丸」に由来するそうです。ちなみに朝潮橋というのも灌漑用水路にかけられた橋で、ともに現在は埋め立てられてありません。(参考：『大阪市電が走った街 今昔』辰巳博・著 福田静一・編 写真も本書から)

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！